



「県政タウンミーティング（熟議方式）」の開催結果について

教育総務課

開催日時	平成23年9月19日（月・祝日） 13時30分～16時30分
場 所	長野県庁 講堂
参 加 者	<p>○熟議参加者 52名（6グループ） 公募の県民：40名、県関係者：6名（阿部知事、耳塚委員長職務代理者、高木委員、山口教育長、柳澤教育次長、小嶋次世代サポート課長）、ファシリテーター：6名</p> <p>○傍聴者 約30名</p>
テ ー マ	「10年後の学校を考えよう」
熟議で出された意見（グループ発表から抜粋）	<p>○ 地域に開かれた学校を実現するために、学校単位でタウンミーティングのような場を設けてはどうか。</p> <p>○ 外部の方に授業をお願いしたり、学校以外の場所で授業を行うなど、地域との連携を図ったらどうか。</p> <p>○ NPO 団体を含め、地域と連携しながら、学校の活動や情報を共有してはどうか。</p> <p>○ 指導力の高い教師を増やしてはどうか。</p> <p>○ 教師の自己研鑽については、校内はもとより、学校以外の場でもっとたくさん研鑽を積んだ方がいいのではないか。</p> <p>○ 教師の学校現場の分業化、チーム化をしたらどうか。</p> <p>○ 画一的なカリキュラムではなく、地域や学校の特色を活かしたオリジナルのあるカリキュラムにしたらどうか。</p> <p>○ 試行的に県下各地でパイロットスクールを立ち上げたらどうか。</p> <p>○ 子どもを長いビジョンで共有し、子どもの育ちを見守っていく姿勢が必要ではないか。</p> <p>○ 学校種の枠を超えた異年齢交流の学習など、地域の中で相手意識や自己有用感を抱ける学習を行ったらどうか。</p>
熟 議 の 様 子	 

「県政タウンミーティング(長野市)」(平成23年9月19日)グループ毎のまとめ

教育総務課

テーマ「10年後の学校を考えよう」

グループ	課 題	10年後の学校のありたい姿	実現のための方策・具体的なアイディア
A	○学校と社会、地域がつながっていない	○地域に開かれた学校 ・実際の現場の人に授業をしてもらう ・学校現場を中心に地域のコミュニティの再生	○学校単位のタウンミーティングの様な場を設ける
	○教師が”のびのび”と仕事ができない		
B	○今、将来の社会環境にあった教育現場になっていないのでは	○教師も子ども・親も元気な姿	○目の前の事象と長いビジョンを共有して、生徒・児童の育ち見守っていく ○教師・親・社会、子どもをほめて伸ばす目を持って教える ○指導力の高い教師の増員と教育予算の増加 ○大学の教員養成プログラム(実践的)の確立
	○子ども達に生きる力・たくまさが不足している	○全ての関係する人・ものに「ゆとり」を	
	○多様な子どもの教育ニーズに答えられていない(発達障害・いじめ・不登校・外国籍等)	○グローバルに活躍できる人材育成を目標に！ ○地域のコミュニティーの拠点とする。	
C	○子どもの視点の欠如	○子どもが参画する学校	○地域との連携(活動・情報の共有) ○私学から学ぶ(私学で救われる子がいる現状) ○地域のエキスパートを呼ぶ ○評価の見直し ○採用試験の見直し
	○学びの間直し	○授業の質の深化 (子どもにとって楽しい、分かる)	
	○教師の多忙化	○子どもと向き合う時間が増える (ゆとりのある時間、授業の準備)	
D	○教師も子どもも親も多忙	○カリキュラムの大幅見直し(地域力の活用)	○午前に基礎、午後は自由活動 ○地域の人材の活用(教師も地域へ) ○自由なカリキュラム ○県下各地でのパイロットスクール ○海外体験の機会を増やす ○子ほめ条例 ○高学年の子は一人のこらず自分の良さ、やりたいことが言える。
	○個々では解決できな課題(不登校など)	○パイロットスクールの立ち上げ(3年以内)	
	○夢、未来、自己肯定感の欠如	○よみ、かき等基礎力の充実と個性の伸長	
E	○教師の課題	○熱意・責任のある先生、自己研鑽、実体験、モラル向上	○自己研鑽をつむ→学校以外の場で研鑽をつむ ○校内体制での職員同士の協力→こまめに連絡をとり合う ○子どもと向き合う時間を見い出す→PTA作業等で子どもとともに活動する場を見い出す。行政支援、NPO等外部からの支援も必要 ○地域見守り隊、NPO等の活用→生活科や総合的な学習の時間での外部講師の依頼
	○学校の課題	○子どもとみんなでかかわる	
	○家庭の課題	○情報を密にしてい、お互いに気持ちを伝える	
	○地域の課題	○外部への積極的な要請	
F	○住民、地域の中、相手意識や自己有用感を抱けるような学習(地域科の提案)	○めざす子ども・地域像 ・地域(町)が学校(学びの場) ・学び合う地域(子ども・住民・親・教師・生徒) ・地域を支える子ども (共感するためのコミュニケーション力)	○校種の枠をこえた異年齢交流の学習活動 ○教師の学校現場の構造化・分業化・チーム化 ○先進国(OECD諸国)並の教育費確保！！ ○家族支援の再構築(療育センターの充実)
	○子どもの家庭実態の把握		
	○「学力」の再定義		